

臨時 小平市子ども・子育て審議会 会議要録	
日時	令和2年9月18日（金） 午後3時15分～4時
場所	中央公民館 2階 学習室4
出席者等	子ども・子育て審議会委員・・・11人（欠席5人） 傍聴人・・・1人
配布資料	・小平市待機児童解消に向けた緊急対策
議事	(1) 待機児童解消に向けた緊急対策について (2) その他
上記内容についての意見・質疑応答	
(1) 待機児童解消に向けた緊急対策について	
委員	待機児童の状況が厳しく、市民のために解消していくというのは分かる。市内の保育園はいくつあるか。0～5歳児の定員はそれぞれ何人か。3・4・5歳児は定員割れを起こしていて、1・2歳児が足りないとのことだが、ではどれだけ足りないのか。今の受け皿を示してほしい。
事務局	公立保育園は9園、私立保育園は35園。令和2年度4月時点で、認可保育園等の定員は0歳児は399人、1・2歳児は1,529人、3・4・5歳児は2,783人。おおむね入所率は95%以上であり、一部新園において、3歳児以降ですぐに埋まらなくて、徐々に埋まっていく状況である。
委員	待機児童の多さには本当に対応しなければならない。今回、このような数字が出たのであれば、対策を取ってこの先の10～20年を踏まえた計画を立てなければならない。また、入っただけでなくて、入った後のことも重視して計画しないといけない。今回の説明は、1・2歳に絞るとのことだが、それで今後も大丈夫なのか。
事務局	一番対策しないといけないのは、1・2歳児と考えている。平成29年度に7園を開所して待機児童が大幅に減った。そのときの1・2歳児の申込率が40%くらいだったのが、令和2年度になると申込率は50%程度になった。多摩地域はどこでも同じような状況であるが、待機児童対策がうまくいっている自治体では申込率が52～55%くらいで落ち着いている。その後申込率はさらに上がるかもしれないが、人口減少も進み、相殺されるので、待機児童も落ち着いてくると考えている。

事務局	子ども・子育て支援事業計画で令和6年度までの推計をしている。今回の緊急対策は、今年度の児童数や入会率を踏まえて立案している。これより先の令和7年度以降については、次回のニーズ調査の結果を踏まえて検討することになる。
委員	育児休暇を取る人が多いため、0歳のニーズは落ち着いてきているが、仕事をしながら育児をしている人もいるので、0歳のニーズもある。現場では、1歳で入れないから、0歳から入れたいという声もある。一時預かりなどで担っている部分もある。花小金井地区では入りたくても入れない人はいる。同じ保育施設で0～5歳まで入園から卒園まで迎えるというのがベストである。
事務局	今年度の0歳児の待機児童数は25人である。0歳児の申込みも多い状況であるが、待機児童数の大半は1・2歳児であることから、今回は1・2歳児に的を絞った対策ということで考えた。また、対象年齢は1～5歳の保育園ということで考えている。
委員	保育所は0歳がいと看護師を配置しなければならない。乳児を預かる園は病気や怪我などから子どもの命を守るため、看護師の専門の力を借りながら運営している。1歳からということになると看護師を配置しないということになるのか。
事務局	その通りである。ただ、看護師を配置する加算は難しいと思うが、運営費の範囲内で看護師を配置している保育園もある。園の考え方や実情に合わせて配置は可能である。
委員	実際に加算がなければ看護師を配置するのは無理ではないかと思う。保育の質に関わってくることなので、今後柔軟に考えていただきたい。
委員	前回の審議会では、幼児期の教育・保育について、量の見込みと確保方策は達成したとのことであったが、それでも待機児童が出ているのは量の見込みが甘かった、ということではないのか。
事務局	前回の審議会では前期計画の推進状況を示しており、計画上の量の見込みに対する確保方策は達成していたが、前期計画の中には、国の指針に基づき、東地域における大規模な開発を見込んでいなかったためである。
委員	花小金井地区だけ保育の受け皿が足りなかったということなのか。花小金井地区だけの対策であって、市全体の対策ではないということであれば、全体の総数を変えないで、西地区の定員を減らして、東地区の定員を増やすなどすればいいのではないのか。

事務局	現状では、西地域も4月時点では若干定員に空きがあるが、5月以降になると埋まってしまっている。将来、就学前児童数が一定程度減れば定員を減らすことも可能であると思うが、少なくともこの5年間で西側の定員を減らすことは考えていない。
委員	東部地区だけをなんとか増やそうということになると、東部地区だけお金を使うことになる。今後、東部地区のほうは人口はずっと増えていくということなのか。少し増えてすぐに下がるのではなく、ずっと増え続けるのであれば投資する意味はあると思うが。
事務局	令和5年に約750戸規模の大型マンションができる予定である。大型マンションができると10～15年ほどは就学前児童数に影響が出るので、東部地域の保育需要は今後20年くらいは続くのではないかと考えている。東地域の既存の園では、定員を弾力化して定員以上の受け入れをしているが、申込者数が落ち着いてきたら、弾力定員の解消を図って定員を戻すことを考えている。
委員	<p>待機児童が出るということは、そもそも見込みが甘かったのではないかと。鈴木保育園を民間移行するときに、東部地区は子どもの数が増えてくるのになぜなくすのか、という話になった。これから花小金井地区では大きな開発があるのに、花小金井保育園をなくすとますます保育園が足りなくなるのではないかと。</p> <p>また、開発がどれくらいあるのかを事前に把握してほしい。小川駅西口や小平駅北口の再開発などもあるから、はたして東地区だけ考えればよいのか、という話もある。</p> <p>花小金井保育園については、公共施設マネジメントの関係で、今後十一小学校に複合化されるのかどうか、という話が出ている。しかし、花小金井保育園が民間移行するということは、十一小学校に複合化されないということなのか。</p>
事務局	民間移行であるため、保育園をなくすわけではない。見込みについては、国の指針に基づき、前期の計画には東地域の開発を落とし込まなかったため、このような結果になった。花小金井保育園は、公立保育園の運営のあり方の方針を踏まえ、財源など総合的に考え、民間移行との結論に至った。
委員	花小金井保育園が民間移行するのであれば、十一小学校には入らないということか。

事務局	<p>十一小学校の複合化は、公民館や地域センターなど地域コミュニティの醸成の観点で検討を進めていると担当から聞いている。施設の老朽化や財源確保、将来に向けて安定した保育行政を行うためには、民間移行して定員数を確保していくという結論に至った。</p>
委員	<p>保育園の新設が急務とのことだが、幼稚園協会の立場からすると、幼稚園は定員割れしている。幼稚園は私立なので、私学の独自の頑張りでと言われてるように感じる。ただ、アットホーム事業を立ち上げるときに、幼稚園は保育園の手助けをするために小平市に協力してきたということも皆さんにご理解いただいたうえで、決めてほしい。コロナの期間も、幼稚園は学校に準ずる対処でよいのだが、働いている保護者のためにも開けてほしいと小平市や国から強い要望があったので、協力してきた。</p> <p>資料のポイント3の「幼稚園の認定こども園化を推進する」ということは事前に聞いていなかったもので、驚いている。これを承知していると思われると大変困るので、幼稚園協会としては認められない。</p> <p>認定こども園化が最小の経費で最大の効果とは思えないし、私立幼稚園はそれぞれの園の教育理念などがあるので、考えを改めて聞かせてほしい。</p>
事務局	<p>幼稚園協会にはアットホーム事業や預かり保育にご尽力いただき感謝している。幼稚園協会の協力をいただきながら進めていきたいと考えている。今回の緊急対策は1・2歳のところにポイントを置いており、いくつかの園には認定こども園化できないかとの相談をしているところである。1・2歳の受入れを何とかしたいという市の思いであり、あくまでも推進ということで各園のご意志を尊重しながら進めていきたい。</p>
事務局	<p>「最小の経費で最大の効果」は、資料のポイント4「公立保育園の民間移行による財源確保」を指している。幼稚園の認定こども園化は誤解を招く表現であったかもしれないが、あくまで市の思いとして、お願いしていきたいということである。</p>
委員	<p>誤解されるので、表現を改めてもらいたい。</p> <p>保育を必要な家庭に対して手厚い支援だと思うが、家庭で教育をしている人に対する支援、小平市の子育てのビジョンが見えてこない。働いていない人への手厚さもほしい。そこを担っているのが幼稚園であり、認定こども園になることが嫌というわけではないが、子どもの教育の質を保たなければならない立場にいる。1・2歳のない幼稚園型の認定こども園になろうかという話については、市はあまり認めたくないようだ。小平全体の子どもたちの育ちが保たれるビジョンを持ってほしい。</p>

事務局	すべての子どもたちがいきいきと育つことを目標としている。皆さんの意見を伺いながら進めていきたい。
委員	保育園協会としても事前に聞いていない。小平の子どもたちのためにできることは協力したいとの思いがあるので、事前に相談があれば保育園協会としても色々な提案をすることができた。
事務局	今回の緊急対策は、今保育園に入れていない方々に安心してもらえるように打ち出したものである。資料のポイント4「あらゆる対策を組み合わせる実施」に込めた思いは、今回の計画だけ進めるというわけではなく、他に方策があれば取り入れていきたい。定員確保に保育園協会や幼稚園協会のご協力をいただけるようであれば、ご提案いただきたい。
会長	量の見込みの状況に応じた柔軟な見直しや、利用者はもちろんだが現場の保育者の声も聞きながら進めてもらいたい。民間移行の公立保育園が新たに1園決まるので、保護者には丁寧な説明をしてほしい。また、市全体の開発を把握していただき、就学前児童数の変化に合わせて定員の調整や弾力化などを丁寧に進めてほしい。
(2) その他	
	特になし